

47歳、4児の子育てをしている父親です。常日頃、子ども達には、身の周りで起こった感動を心に刻み、未来への礎にしていってほしいと感じています。

先月21日、チームオレンジはら・うきしまの一員として、母校の原中学校で認知症サポーター養成講座を1年生対象に行ってきました。

毎年趣向を凝らして講座に臨むのですが、前半の座学担当の、はらディサーピスセンター鈴木貴勝さんが最後に流した動画、樋口「一」手紙「親愛なる子供たちへ」が、特に生徒達の心に刻まれたのではないかと感じています。

歌詞の内容は、認知症の方の言葉にならない心の声を表現したもので、もしかしたら私達チームオレンジの仲間や先生達の方が、グッと

てしまったかもしれせん。ユーチューブでご覧頂けますので、ぜひ検索してお聞き頂ければと思います。

後半は、その歌詞の内容を引用したゲーム形式のワークシ

ョップで学びを深めてもらい、最後に「時間と記憶」の話

をしました。「記憶と記憶を結んだ物語を、私達は時間と認識していま

す。専門家でもない私が言うのはおこがましいけれど、認知

症は脳の病気であつて、記憶と記憶の結

び方がうまくいかなくなってしまうただけなのだと感じて

います。「だから傍から見

ておかしいなど感じて

ても、認知症の方か

らすれば、自分の中

で結ばれた正當な物

も辛いと感じます。認知症の方と対面したら、尊厳を大事にしつつ、思いやりの気持ちをもって見守り、サポートしてほしいです」

「また、人は同じ場所にいても、それぞれが違う記憶をしています。それぞれが、それらの記憶を

結んで過去を思い返し、記憶の中から展望して未来を見つめ

うけれど、心で記憶した学生時代の他愛もない日常のひと場面は、さっき起こったことかのごとくスラスラ出てきます。

心で記憶したこと

は、一時的に忘れることはあっても、ふ

心で記憶する

飯田理一朗

ています。だから、あなたの未来は、あなたの記憶の中からしか生まれません。

もし未来に希望が持てないなら、自分に新たな記憶を刻んでほしいです。その時

は頭で記憶するので

はなく、心で記憶を

刻んで下さい」

頭で記憶した学生

時代の授業の内容は

スッカリ忘れてしま

でした。全米からバッシングを受け、彼女は身辺を調べるのですが、身近な場所

にその本はなく、幼少の頃にバカンスで訪れた家の本棚にあ

ったのではないかと

いう曖昧な話が出た程度で、聞き写した

ような証拠はありませんでした。

彼女が故意に盗作

するとは思えませんが、私も文章を書い

ていて、自分の中に

こんな言葉があった

のか驚くようなもの

が突然出てくること

があるもので、心で

記憶したものからで

した。彼女は幼少期、

攻めてきたソ連軍が

戦車で人をひき殺し、

白い雪に鮮血が

染み込んでいく情景

を目撃したそう

で、スピーチ中に、そ

の記憶が湧き上が

ってしまい、ついつい

涙がこぼれてしま

ったそう

ピソード記憶です。特に感情記憶は、認知症になり記憶を失

っていても、その人の人生の最後の日

まで残る、一番大切な記憶の「ダイヤ

モンド」のようなもの

です。

感情記憶に働きか

けることで、他の記

憶が蘇ってくるこ

とあります。日々

「よい感情」の記憶

を残していくこと

誰かができる最高の